

経営比較分析表（平成29年度決算）

秋田県

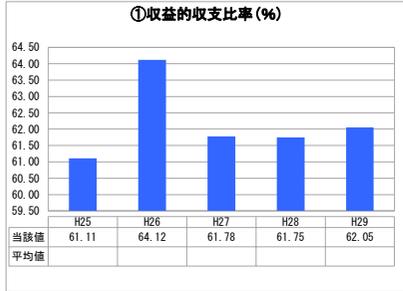
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ ³ 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	1.79	62.91	2,100

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
1,015,057	11,637.52	87.22
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
93	0.54	172.22

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



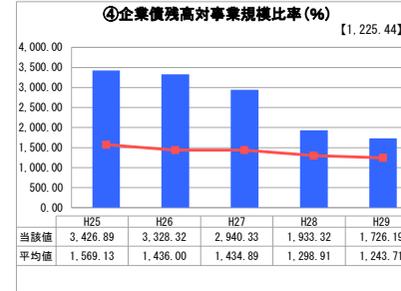
「単年度の収支」



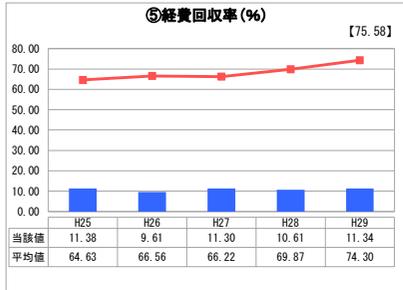
「累積欠損」



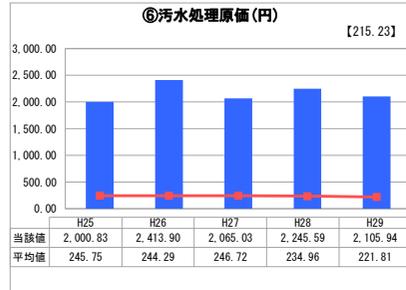
「支払能力」



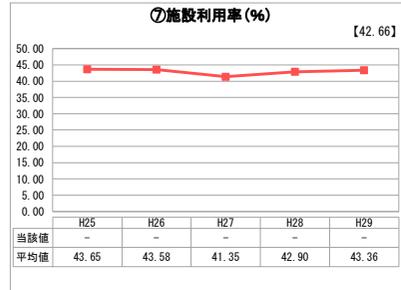
「債務残高」



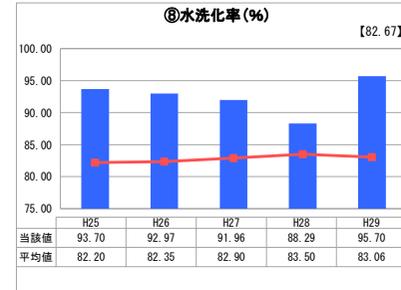
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

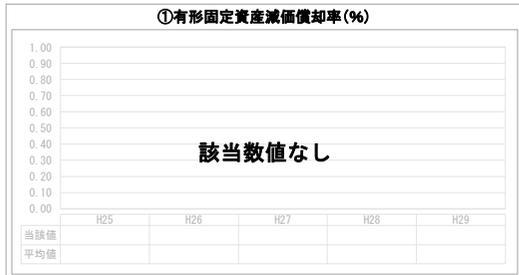


「施設の効率性」

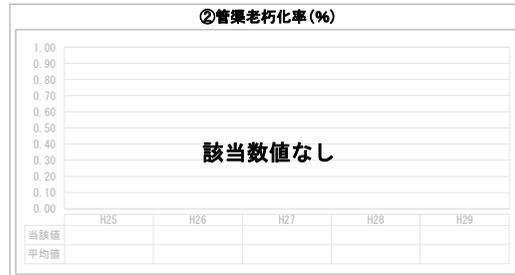


「使用料対象の捕捉」

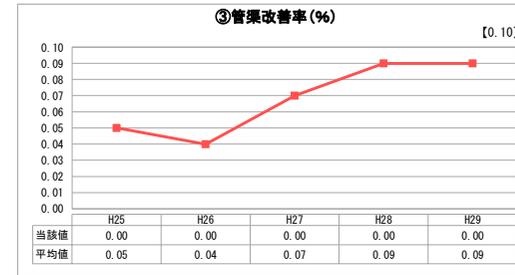
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析概

1. 経営の健全性・効率性について

- 収益的収支比率
 - ・使用料収入のうち約9割がホテル等の宿泊施設が占めており、こられの収入変動が指標の増減に影響を与えるもの、近年は60%台でほぼ安定している。
- 企業債残高対事業規模比率
 - ・企業債の償還にともない、減少傾向にある。
- 経費回収率・汚水処理原価
 - ・類似団体平均と比較大きく乖離しているが、本事業は、十和田湖の水質保全を目的として青森県と共同で実施している事業であり単純な比較はできないものと考えられる。
 - ・各指標とも近年は微増減を繰り返している。
- 水洗化率
 - ・対前年比で7.4ポイント上昇しているが、これは、分母の「処理区域内人口」の減少幅が大きかったためである。

2. 老朽化の状況について

- 管渠破損が増加する目安とされる整備から30年経過する管渠について、今後10年間で7割以上となるため、改築更新費の増加が懸念されることから、今後は、ストックマネジメント計画の策定により、投資の最適化を図っていく。

全体総括

- 県内有数の観光地である十和田湖の水質保全のため本事業を継続していく必要があることから、「経営戦略」に基づき、ストックマネジメント計画による施設の改築・更新、公営企業会計の適用等により、更なる経営改善に取り組んでいく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。
 ※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。